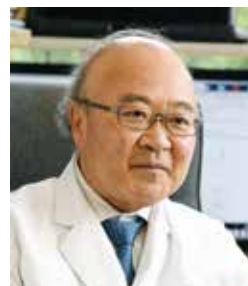


今月のトピック

新年度に向けた所信

院長 大田 健

令和6年4月になって年度が替わり、複十字病院は私も含めて新たな気持ちで新年度を迎えています。正月の元旦に能登半島を中心に大きな地震が起こりました。羽田空港では旅客機と自衛隊機の衝突が起こりました。4月3日には台湾でも大地震が発生しました。また引き続きウクライナやガザ地区は戦禍に見舞われています。天災は忘れた頃にやってくるは当てはまらない状況です。そして人災ともいえる戦禍の拡大も脅威です。関東に居住している我々の現状に深く感謝すると同時に被災地の現状に筆舌では表せない悲しみ、苛立ち、無力感を感じます。問題山積の感がある新年度ですが、我々医療機関にとっては足掛け4年間振り回され続けたコロナ禍から解放されポストコロナの状態を迎えたことはとても大きな出来事であり朗報です。新たな気持ちで医療体制を整備して、コロナ以外の我々の得意とする専門領域で皆さんの病気の治療と健康の維持にしっかりと注力する覚悟です。コロナ禍の中で密かに進めてきた本館の建て替え計画も新年度には大きく進展させ、職員だけでなく受診される皆さんにも当院の将来像に触れて頂けるようにする予定です。季節を告げる豊かな自然に囲まれた当院の環境を活かして、地域の中核病院に相応しい内容で、安全で快適な医療を実行するべく努力して参ります。皆さんの病気だけでなく健康の維持と増進にも貢献できる病院としてさらに発展したいと思っております。2024年度もどうぞよろしくお願い致します。



市民公開講座

第18回乳腺センター主催乳がん市民公開講座を開催して 複十字病院 乳腺センター 武田 泰隆

今回の市民公開講座は、長引くコロナ禍で4年半ぶりの対面での開催となりました。もともとこの講座は、女性の皆さんが乳がんを恐れ、検診を受けなかったり、検査や治療を躊躇することによって、病気が進行してしまう原因が、乳がんに対する認識不足であると考え、市民の方々への情報発信の場として2006年から開催してきました。今回は、乳がん未経験の方へは乳がん検診のすすめを、乳がん経験者には治療中・治療後も常につきまとう再発の不安とのつきあい方を、それぞれの講師の先生にお話しいただきました。当日は、天気の大きな崩れもなく、60人を越える市民の方々にご来場いただきました。会場の外では、関連グッズやケア用品も展示させていただき、大変好評でした。対面での開催のメリットを痛感いたしました。当科は乳がんに対しての標準治療を提供するのはもとより、単に診断や治療だけにとどまらない、乳がん診療に対する当科の姿勢を実感していただけたのではないかと考えております。

講演会当日は多くの方にご来場いただきましてありがとうございました。

乳癌は日本では年間約9万5千人が罹患します。9人に1人がなる病気で、稀な病気ではありません。乳癌で命をおとすことがないようにする第一歩目として、乳癌検診を受け早期発見をする必要があります。さらに死亡率を下げるためには標準治療を受けることが次のポイントになります。東京都の乳癌検診受診率は50%に上昇しており、死亡率もゆっくりですが減少傾向が見受けられます。しかしながら清瀬市の乳癌検診受診率は16%（令和4年）とかなり低い現状があります。今回の会をきっかけに自分の乳房の状態を把握する生活習慣（ブレストアウェアネス）が定着すること、検診受診率が向上すればよいと思うと同時に、どのようにすれば実現可能かも検討していきたいと考えております。また、第2講演では、癌になった方の様々な疑問が学べ、大変有意義な時間を共有できました。

「気持ちがラクになる がんとの向き合い方」

このたび、ご縁があって、乳がん市民公開講座で登壇させていただきました。会場いっぱいとなる市民の方々（主に乳がん経験者の皆様）にお越しいただき、熱心に聴いていただいたおかげで、私も気持ちよく語らせていただきました。

講演のタイトルは、「気持ちがラクになる がんとの向き合い方」で、同タイトルの拙著（ビジネス社、2023年）や、読売新聞社の医療系サイト「ヨミドクター」に連載中のコラム「Dr.高野の『腫瘍内科医になんでも聞いてみよう』」の内容を織り交ぜながら、腫瘍内科医の役割とその育成、私が監修したNHKドラマ「幸運なひと」の裏話、小中高校で行っている「がん教育」、身近な人ががんになったときの接し方、読売巨人軍とのコラボで行ったイベント「大切なひとウィーク」、食事や運動の考え方、今流行りの「〇〇オンコロジー」など学際的な動き、がんにもつわる過剰なイメージを払拭する考え方、抗がん剤治療についての考え方、今ここにはない医療を夢見るよりも今ここにある医療を最大限活用するの重要だということ、などなど、いろんなことをお話しさせていただきました。

すべての人が自分らしく生きられるように、少しでも参考になったことがあれば嬉しく思います。このたびは貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

次回予告

日時・場所：6月1日（土）14時～ 清瀬市アミューホール
講演内容：気管支ぜんそくの吸入療法／たばこの害

参加費無料

予約不要

能登半島地震 災害活動レポート

清瀬市職員 稲場 良輔

複十字病院看護部 末谷 里奈

私は、清瀬市独自の被災地派遣の取り組みとして、1月23日から2月1日まで石川県能登町へ派遣されました。日々メディアが伝える北陸の被災状況を見て、何か少しでも被災地で力になれないかと考えていたところ、庁内公募の機会があったため、志願いたしました。

能登町の人口約15,000人のうち、発災後1か月が経とうとしていた当時も1,000人以上が避難所生活を強いられていました。

現地では8日間、能登町役場内の議場に寝泊まりしながら災害証明の発行業務に携わりました。

能登町の職員は、避難所運営やインフラの復旧、震災に関する行政手続きの対応に追われ、休むことなく毎日夜遅くまで働いていました。自身の住宅が全壊し、役場への寝泊まりを余儀なくされながらも、全力で町を立て直そうとしている職員には「役に立つ人」＝「役人」としての姿がありました。

災害はいつ起こるか誰にもわかりません。今回の地震が起きたとき、電話回線がパンクし、道路にも亀裂が入ったため、救急車を含む外部からの救助・輸送が滞ってしまいました。こういったとき、まず頼りになるのは日頃の災害への備えです。最低でも3日分の食糧等の備蓄は必要となります。さらに、家族や地域の方とのつながりも大切であり、そのことを改めて感じました。

これを機に皆さんにも「災害への備え」を今一度考えていただきたいと思います。

2024年2月11日から14日まで、金沢市内の1.5次避難所『いしかわ総合スポーツセンター』で、災害支援ナースとして慢性期における看護活動を行ってきました。1.5次避難所とは、障害者や未就学児などの介護、配慮が必要な方が、二次避難所や仮設住宅へ入居するまでの間、一時的に入所する施設です。入所期間は1週間程度として開設されましたが長期化しており、入所者の多くは高齢の方でした。私たちは、「生活者を傷病者にさせない」を目標として取り組み、災害関連死の死因ともされる深部静脈血栓症の防止やコロナなどの感染対策、慢性疾患の悪化防止などを行いました。また、被災前にはできていたことが、精神的、環境変化などの要因によりできなくなっていることにも注目し、県職員をはじめ、介護職、DMATやリハビリなどの支援団体と協働し改善を図りました。

避難所での支援活動は、入所者の生活の場での支援となるため病院とは異なります。災害の知識や応用力、チームワークや多職種連携が必須であり、実践の積み重ねが大切であることを痛感しました。

最後に、この度の地震で被害に遭われました方々に、一日でも早く穏やかに過ごせる日々が戻りますことを心よりお祈りいたします。



朽名
貴史

- 担当科／消化器外科
- 出身地／群馬県
- 出身大学、卒業年／杏林大学 2016年卒

▶大学卒業後の主な経歴

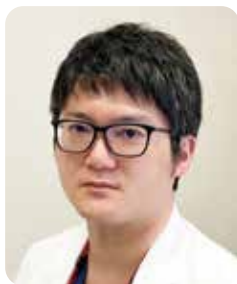
杏林大学医学部付属病院で初期臨床研修修了後、同院消化器一般外科に入局

▶専門医・認定医資格

外科専門医

▶患者さんへのメッセージ

患者さんの心に寄り添う医療を心掛けていますので今後とも宜しくお願いします。

名波
勇人

- 担当科／呼吸器外科
- 出身地／静岡県
- 出身大学、卒業年／浜松医科大学 2016年卒

▶大学卒業後の主な経歴

静岡市立静岡病院で初期・後期研修を行いました。2021年4月より国立がん研究センター中央病院・呼吸器外科で3年修練を行い、2024年4月より当院に勤務となりました。

▶専門医・認定医資格

外科専門医

▶趣味及び特技

サッカー・フットサル

▶患者さんへのメッセージ

胸部外科チームで協力して治療に取り組んでいます。

中山
祥未

- 担当科／消化器外科
- 出身地／東京都
- 出身大学、卒業年／杏林大学 2003年卒

▶大学卒業後の主な経歴

順天堂大学肝胆膵外科に入局、以後は順天堂練馬病院、明理会東京大和病院に勤務

▶専門医・認定医資格

外科専門医、肝臓専門医、消化器内視鏡専門医

▶趣味及び特技

絵を描くこと、スポーツ観戦

▶患者さんへのメッセージ

病院を受診することの心のハードルを下げていきたいと思っています。とくに女性の方、男性には相談しにくいこともお気軽にお尋ねください。

栃木
健太郎

- 担当科／呼吸器内科
- 出身地／鹿児島県
- 出身大学、卒業年／鹿児島大学 2017年卒

▶大学卒業後の主な経歴

鹿児島生協病院で初期研修後、同院で内科専門医を取得。卒後5年目まで総合内科として勤務。2022年から千葉県亀田総合病院で呼吸器内科専門医として勤務開始。

▶専門医・認定医資格

内科専門医

▶趣味及び特技

サッカー フットサル

▶患者さんへのメッセージ

病気だけでなく、人を診る医療を心がけます。よろしくお祈りします。

平野
愛

- 担当科／呼吸器内科
- 出身地／東京都
- 出身大学、卒業年／杏林大学 2021年卒

▶大学卒業後の主な経歴

順天堂大学練馬病院で初期臨床研修後、杏林大学病院呼吸器内科に入局

▶専門医・認定医資格

なし

▶患者さんへのメッセージ

精一杯努めてまいります。よろしくお祈り申し上げます。

大地、震へる前に ②トイレ編 (その2:トイレセット) 内山 隆司

(前回までの経過) 病院における震災時の対応で最も重要なのは「人の参集」であるが、二番目に重要なのは「トイレ」だと考えている。

原則、清瀬市等(清瀬市あるいは東久留米市)震度5弱以上の地震で、当院全館2階以上の共用トイレはすべて流水禁止にするが、使用禁止にはせず、トイレセットを座位便器に取り付けて使用する計画である。

回収に手が回らない事が予想されるので、個室病室付属のトイレは使用禁止とする。震災時には業務の仕分けが必要になることは理解してもらいたい。

トイレセットには、「凝固剤式」と「シート式」の二種類がある。

どちらも座位便器にビニール袋を内外二重に取り付け使用する。使用後は、外側袋は繰り返し使用し、内側袋のみ回収し、袋口を縛り、所定の位置に廃棄する。



「凝固剤式」



「シート式」

「シート式」は、要はオムツなので保管に場所をとる。「凝固剤式」は、保管に場所はとらぬが、ビニール袋が破れたら凝固剤と混然一体となった内容物が漏れ出て来る恐れがある。また、高齢者が多い病院では致命的な欠点が起こり得る事に気が付いた。万が一凝固剤を便器に流されたら、排水管内で凝固し、排水管が詰まってしまう。よって当院では「シート式」を採用した。

	値段/回	使用期限	容積	ビニール袋が破れたら	流されたら
凝固剤式	約100円	約10年	小	内容が漏れる	排水管詰まる
シート式	約150円	約10年	大	内容は漏れにくい	まず流れない

なお、下階に地下電気施設室が位置する、本館1階の「玄関放射線横トイレ」と「採尿室」を除いた全館1階のトイレは、立位座位便器ともに流水可能とする計画である。

次回 「②トイレ編 (その3:各種禁止表示)」 に続く ▶



複十字病院は
公益財団法人結核予防会の病院です

予約・紹介のご案内

- 受付時間**
平日 8:30~17:00
土曜日 8:30~12:00
- 医療機関・紹介状をお持ちの患者さんのご予約**
電話 042-491-9128
FAX 042-491-3553
- 再診・初診(紹介状なし)のご予約**
電話 042-491-6228

複十字病院
〒204-8522 東京都清瀬市松山3-1-24
代表電話 042-491-4111
代表FAX 042-492-4765



複十字病院の理念

複十字病院は、質の高い温かな医療と看護を提供するとともに、医療連携を推進し地域社会が求める包括的な医療の実現を目指します。

交通のご案内

- 電車でお越しの方**
・西武池袋線「清瀬駅南口」より徒歩12分
または、バス「南口2番乗り場」より3つ目「複十字病院前」下車
・JR中央線 武蔵小金井駅より「清瀬駅南口ゆき」バス「保育園入口」下車 バス停より徒歩5分
- お車でお越しの方**
・小金井街道「清瀬高校入口」信号を曲がり 西に300メートル
・所沢街道「全生園東」信号を曲がり病院通りを東北に2キロメートル

病院運営の基本方針

- ①呼吸器疾患、がん、生活習慣病を柱とした質の高い温かな医療と看護の充実を図る。
- ②国の高度結核専門施設、東京都(肺がん、大腸がん、乳がん)診療連携協力病院としての役割をはたす。
- ③複十字病院登録医会を中心に医療連携を推進し、在宅医療、救急医療、災害時対応など地域医療に貢献する。
- ④健診事業を発展させ、疾患の早期発見と予防医療を推進する。
- ⑤複十字病院「患者権利章典」を尊重する。